

## ○普段の様子

川の水は、川と同じ高さにある下段の放流孔（穴）を通して、ダムでせき止められることなく、渓流の状態の上流から下流へと常に流れています。

## ○洪水時の様子

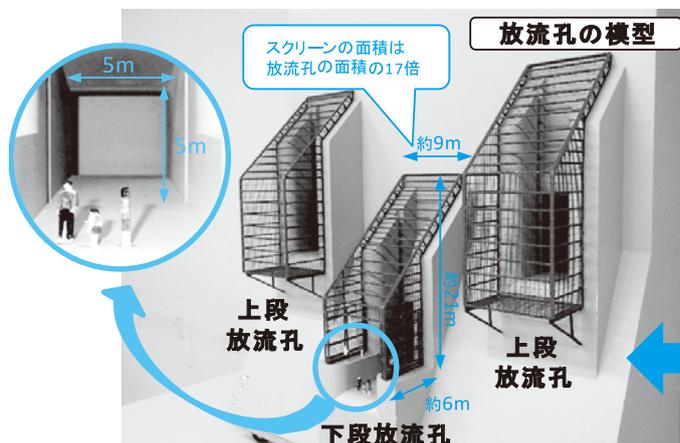
大雨などで川の水量が増え、下段の放流孔から流れる水量より多くなると、流れてくる水の一部が、ダムに貯まり始めます。上流から流れてくる水量が増え、ダムの水位が上がってきた場合には、上段の2つの放流孔からも水が流れ始めます。立野ダムは、上流から流れてくる水をダムに一時的に貯めることで、洪水被害の防止・軽減を図り、避難する時間を長く確保することができます。

## ○洪水後の様子

雨が収まり、上流から流れてくる水が普段の量に戻っていくと、ダムに貯まっていた水は流れて減っていき、やがて普段の状態に戻ります。

## ○放流孔（水を流す穴）について

放流孔の上流側には、鋼製のスクリーン（柵）が設置されています。柵は、放流孔が流木等で詰まり水を流せなくなることを防ぎます。柵は放流孔の大きさに比べて17倍～20倍の面積があり、模型実験で効果も確認しています。

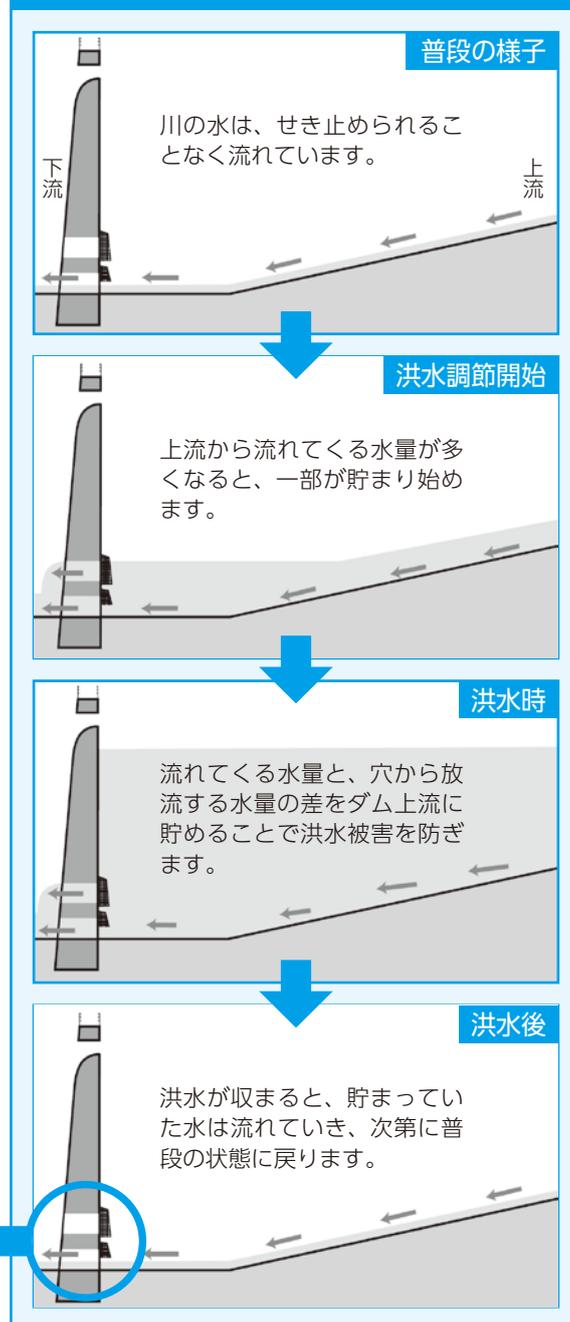


前号に引き続き、立野ダム工事事務所から詳しい説明を伺いました。

## ○立野ダムはどんな構造のダムか

「ダム」と聞くと、川の水がせき止められて貯まっている様子を想像されるかもしれませんが。しかし、立野ダムは「流水型ダム」という構造で、普段はダムに水は貯まっていません。

## 立野ダムの洪水調節イメージ（横から見た図）



次回、連載最終回の第3回（広報10月号）では、村と立野ダムとの関わりかたについてお伝えする予定です。